

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】教育・保育相談		
担当者(Instructors)	後藤 永子,堀 篤実	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
教育・保育相談支援の意義を、児童・幼児の発達や生活から児童・幼児理解を踏まえ、その実際を学ぶ。カウンセリングの基本的な知識を理解し、保護者支援の方法と技術、地域とのネットワークを学ぶ。（オムニバス方式／全15回）（堀篤実）学校で起こるいじめや発達障害等についての理解を深め、カウンセリングの基礎知識を得ることでそれらへの対処の方法を学ぶ。（後藤永子）保育所・幼稚園おける子ども理解を踏まえ、保護者支援の実際を理解する。子どもの様子から保護者との相互理解を図る方法を学ぶ。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	堀担当の授業は対面の回とオンラインの回を併用します。オンラインの回は毎回Google classroomでPowerPointの資料に音声解説をつけて配信します。その資料を視聴後、課題に取り組みます。ディスカッションを取り入れて行う。また、ロールプレーについて学ぶ。（後藤）

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス 教育相談とは (担当：堀)	教育相談の講義の概要、事前事後学習、受講の留意点	☐
第2回	教育相談の目的とありかた (担当：堀)	1 教育相談とは 2 教育相談の歴史 3 教育相談のあり方	☐
第3回	学校で起こる諸問題①多様化する不登校・いじめの理解と対応 (担当：堀)	1 不登校の定義と現状 2 不登校生徒への対応 3 いじめの定義と現状と対応	☐
第4回	学校で起こる諸問題②神経症の問題・反社会的行動 (担当：堀)	1 神経症の問題の成り立ちと対応について 2 反社会的行動と心理的背景	☐
第5回	発達障害の理解と対応 (担当：堀)	1 発達障害とは何か 2 学校で問題となる3つの発達障害	☐
第6回	カウンセリングの基礎知識①カウンセリングマインドとは (担当：堀)	カウンセリングにおける聴く技術と聴く心	☐
第7回	カウンセリングの基礎知識②カウンセリングの諸技法 (担当：堀)	カウンセリングの基本的技法と応用 試験	☐
第8回	保護者への保育相談支援の意義 (担当：後藤・堀)	保育相談支援のあり方、立場性と関係性の理解する	☐
第9回	保育の特性との専門性を生かした相談支援 (担当：後藤)	保育現場の子どもと保護者の支援、地域の子育て支援の現状を理解する	☐
第10回	保育現場から小学校への連携と、地域における関係機関等の連携・協力 (担当：後藤)	連携・協力から支援する現状を理解する	☐
第11回	幼稚園・保育所および小学校における相談支援の現状 (担当：後藤)	相談支援の現状からさまざまな事例をロールプレーを通して体験する	☐
第12回	特別な対応を要する家庭への支援 (担当：後藤)	障害児を持つ保護者、虐待等の保護者に対する支援の現状を事例から学ぶ	☐
第13回	保護者への相談支援の方法と技術 (担当：後藤)	保護者への相談支援の方法と技術をロールプレーを通して問題点を学ぶ	☐
第14回	保護者への相談支援の内容と限界 (担当：後藤)	育ての問題、保護者自身の問題等、多岐にわたる相談内容と限界について学ぶ	☐
第15回	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス (担当：後藤)	保育カンファレンスの実際とカウンセリングマインドの重要性を理解する	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
事前学習として、次回のテーマにそった課題が毎回出されるので、読解または資料のまとめで2時間程度の学習を課す。（堀）次回の講義テー

マの読解と問題点を見出すために2時間程度の学習を課す。(後藤) 事後学習として、授業内の資料やプリントを参照に2時間程度でまとめることを課す。(堀・後藤)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

対面の回は出席したことで、振り返りシートを記入していることを確認します。オンラインの回は毎回Google classroomでPowerPointの資料に音声解説をつけて配信します。その資料を視聴後、課題に取り組みます。課題の提出で出席とします。課題は採点され、フィードバックします。全体で共有したほうが良い内容については全員に紹介します。(堀)小レポートは解説し返却、ロールプレーに関わるレポートは全体で話し合う。(後藤)

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◇ 2018子ども発達DP2	小学校・幼稚園・保育所において保護者とのコミュニケーションが出来る幅広い人間力を体得している
	◆ 2018子ども発達DP3	教育・保育の現場で子どもや保護者の支援が出来る力強い実践力を修得出来ている

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			15%	85%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内で行うロールプレーに関わるレポートと小テスト(後藤)35%オンデマンド授業による課題提出(後藤)15%出欠については、対面の場合は対面にて出席、オンデマンド授業は課題提出により出席となる。
授業後、毎回課題、または振り返りのレポートを提出(堀)15%堀担当の最終回にまとめの課題(30%)を提出する。授業内での発言や参加意欲などを総合的に評価(5%)する。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	プリントを配布	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	適宜、紹介します	
2		
3		
4		
5		